

SAWATAウッドデザイン大賞

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 中村太一さん 江副聖さん 野原由菜さん 三津田佳歩さん

2024年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	徳山工業高等専門学校				
学科・学年	土木建築工学科4年、5年				
応募者氏名	ふりがな	なかむら たいち	えぞえ ひじり	のほら ゆな	みつだ かほ
	氏名	中村 太一	江副 聖	野原 由菜	三津田 佳歩
作品タイトル	木とあそぶ				
コンセプト	<p>「自然と一体化しながら遊び、自分を解放できる場所」 離島という非日常の環境で、訪れる人々が日常で溜めこんだエネルギーを発散し、存分に楽しむことを目的としました。</p>				
アピールポイント	<p>実際に現地調査に赴き、自然の豊かさを体感し、グランピング施設を設計するならば、この穏やかな自然の中でグランピングをめいっぱい楽しんで欲しいと考え、環境との調和を重視しました。例えば、波が穏やかで美しい海の景色を楽しむために、菱組構造のピクチャーウィンドウを採用し、露天風呂からも自然の壮大さを堪能できるよう設計しました。 また、現地調査の際、生い茂った草木や、放置されたゴミなど、環境整備の不足を拝見し、島の北側に施設を配置し、定期的な整備を促すことで、地域を活気づけることも目標としました。</p>				



自然と一体化しながら遊び、自分を解放できる場所

コンセプト

自然と一体化しながら遊び、自分を解放できる場所

離島という非日常の環境で、訪れる人々が日常で溜めこんだエネルギーを発散し、存分に楽しむことを目的とした。



自然と一体化し遊ぶ

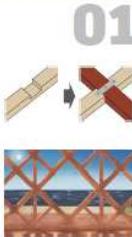
海と連続性を感じられる露天風呂や、内外を緩やかにつなぐ菱組み構造の窓を用いた。



間伐材の利用方法 CLTの菱組構造

相欠き継ぎで組み合わせ、その上から金物で補強して菱組構造をつくる。

海側の壁に用いて開放的な空間に、真ん中の大きなひし形は、ピクチャーウィンドウとしての働きをもつ。



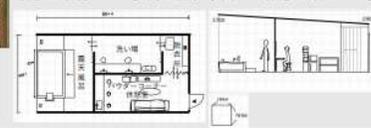
01 間伐材の利用方法 アクティビティにも間伐材を使用。

間伐材トンネル
光と影を楽しむことが出来る間伐材を用いたトンネル。グランピング施設までの道中に設置。



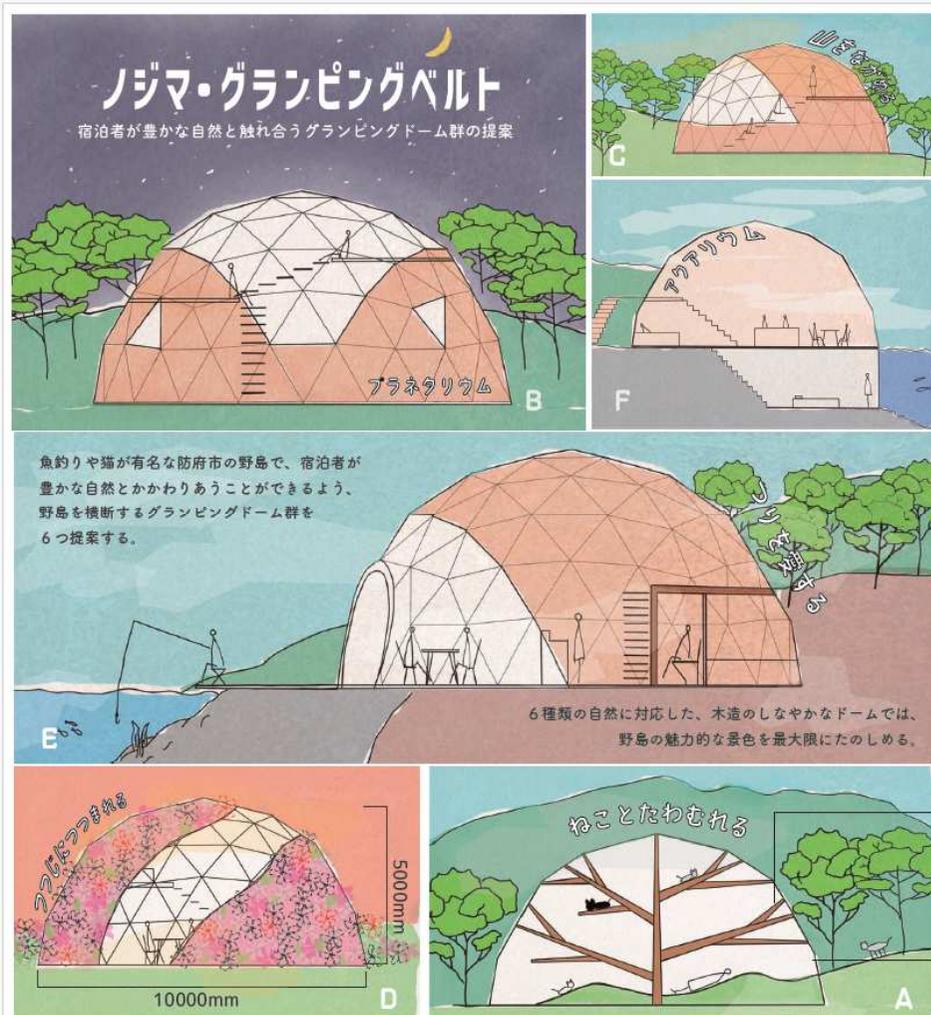
02 露天風呂

ヒノキの間伐集材材を使った浴槽。野島から見られる景色を堪能できる。海と空、水面の一体感を楽しめる。



SAWATAウッドデザイン社長賞

山口大学 工学部感性デザイン工学科 山本隼平さん 創成科学研究科 末田光さん



1 自然と触れ合うグランピング

従来のグランピングの快適さをそのままに、キャンプでしか味わえない自然体験ができるようなドームを設計する。ドームは、自然環境に併せて開口する。

従来のドーム 提案のドーム
外界からとじている 見せ場を開放する

2 グランピングベルト

野島を横断するように、魚釣りやアクアリウム、猫との触れ合いなどのテーマをもった施設を400mの線状に配置する。そのラインを、デッキで繋ぐ。

AからFのグランピングベルト
配置図 S=1:20000

3 デザインコード -間伐材をいかした木造デザイン-



宿泊者のための木造ドームや、全体を繋ぐウッドデッキを作るほか、間伐材を利用したあたたかみのあるキャットタワーやベンチなどの什器を、6施設共通のデザインコードとする。

間伐材利用の例



4 地域のひととの交流



2024年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	山口大学		
学科・学年	工学部感性デザイン工学科4年/ 創成科学研究科修士2年		
応募者氏名	ふりがな	やまもと しゅんぺい	すえだ ひかる
	氏名	山本 隼平	末田 光
作品タイトル	ノジマ・グランピングベルト		
コンセプト	<p>近年流行しているドーム型のグランピング施設は、場所や景観に対してどこも同じものが多い。また、ドーム内で快適に過ごせることを売りにしている一方で、宿泊者と自然とのかかわりが少ないのではないだろうか。</p> <p>この提案では、従来のグランピングの快適さをそのままに、野島の自然環境にあわせた開口を行い、またあたたかみのある木材で作られた什器を用いることで、キャンプのように自然の内部で過ごしている間隔が感じられるようなグランピングドーム群を提案する。</p> <p>【木材利用に関して】 間伐材やCLT材が加工しやすいことから、今回の設計にふさわしい、しなやかなデザインとして導入した。 まず、宿泊者がドーム内においても大自然を感じられるよう、野島の間伐材を用いた木フレームに幕を張るような構造とする。藤棚のようなドームではログハウスのようなぬくもりを感じられ、宿泊者が内部にいても自然に包まれるような感覚を得る。その他にも施設内の机や椅子、ベッド、キャットタワーなどの木製什器を設計に取り入れる。 また、ドーム群の間伐材を用いたデッキやウッドベンチでつなぐ。 間伐材やCLT材利用はSDGsの目標達成と直結しており、間接的に宿泊者や周辺の市民に環境問題を投げかけている。</p>		
アピールポイント	<p>野島の自然を楽しむA~F6種類のドームが、野島の景観を魅力的に見せる。</p> <p>A.ねことたわむれるドーム: 小さな開口からおびきよせた野島のねことゆったり時間を過ごす B.プラネタリアムドーム: 上部に開口があり、夜には天然のプラネタリアムが楽しめる C.山をながめるドーム: 室内から森を眺めながら森林浴やバーベキューをして過ごす D.つつじにつつまれるドーム: 藤棚ドームで「蕃島」と呼ばれた野島のつつじにつつまれる E.釣りを愛するドーム: デッキに出るとすぐ釣りを楽しめる。干潮と満潮時で景色も変わる F.アクアリウムドーム: 地下で海中を眺める。室内にいながらも海中にいる感覚になれる</p> <p>その他、このAからFのドーム群を間伐材のウッドデッキでつなぎ、その途中にベンチを設置する。また市民が気軽に利用できるBBQエリアや釣り場を設ける。地域の人々との交流も生まれ、宿泊者は防府市ならではのあたたかい体験を胸に帰っていく。</p>		

SAWATAウッドデザイン建築士賞

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 山根優志さん 今岡咲絵さん 原田芯吾さん 川元花菜さん



光と木漏れ日の間

～光で非日常を味わう～

野島の自然を光を用いて味わう
野島にある多くの自然のなかで特に光に重きを置いた建物を家のような形にしないことで自然から光を感じているようにした
宿泊施設は壁を設けず、トイレと浴室を別に設けることで、光に意識を向けることができる

ターゲット層：中高年
宿泊形態：1日1組
提案内容：ゆったりとした時間を過ごす空間
自然を感じられる

敷地



～CLTと間伐材の活用～
この建物はCLTを利用しCLTならではの大空間を活かした構造にした
また、間伐材を利用した変形可能な家具を施設内に設置し、自らベットやソファなどの位置を決めてもらうようにした



2024年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	徳山工業高等専門学校			
学科・学年	土木建築工学科5年、4年			
応募者氏名	やまね ゆうし	いまおか さえ	はらだ しんご	かわもと はな
	山根 優志	今岡 咲絵	原田 芯吾	川元 花菜
作品タイトル	光と木漏れ日の間			
コンセプト	野島に現地調査に行ったさい、海風や鳥の声、空など「島」自体から非日常を感じた。新しくアクティビティを提案するのではなく、野島の環境を伸ばすようなグランピング施設を提案する。野島の自然のなかでも遅るものがない島だからこその特徴をいかして光に重きを置いた。			
アピールポイント	宿泊施設の構りは、朝日と夕日の取り入れかたです。朝日は大きく採光部分を設けず、日の出を光が差し込むようにして再現しました。夕日は採光部分を大きく設け野島の夕日を大きく取り込めるようにしました。CLTと間伐材の利用の構りは、CLTでは、棒状のCLTを重ねていくことで曲線をつくり、CLTならではの大空間を活かした構造にしました。また、キャンプ場部分は側面は何箇所かを空け、天井部分は大きさの異なるCLTの板を重ね合わせて木漏れ日のような柔らかな光が差し込むようにしました。間伐材では、変形可能な家具に用います。棒状の間伐材を、屋根の蓋のように形を変形できるように考えました。施設全体の構りとして、角をなくして丸みを持たせることで自然の近くなるように考え、家のような形にしないことでキャンプとしての非日常を感じられると考えました。芝の部分は、CLTの上にトタン波板をしく、トタンを止める釘はシュロ縄を巻いて止水する。トタンの上に炭をまく。その上に細かい枝葉をしく。更にその上に藁を程よくしく。水はけがよく、空気の通りやすい土を敷き詰める。最後に芝生を貼って、軽く粗いチップや炭をまく。以下の工程で可能だと考えました。			

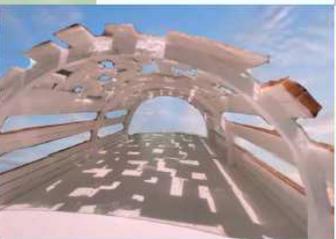


夕日



～野島の朝日と夕日～

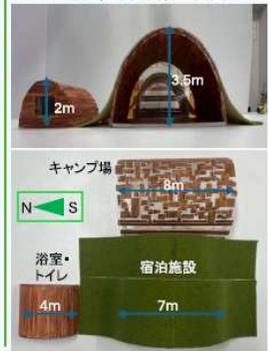
周りに遮るものがない野島ならではの空間を活かす朝日と夕日どちらも取り入れる



～光を味わう～

木漏れ日のようなやわらかい光をイメージした日常では味わえない自然ならではの光の当たり方
CLTの板を重ねるように組み

～寸法、平面図、立面図～



朝日

SAWATAウッドデザイン審査員特別賞

山口県立下関工科高等学校 建築コース 榎本優心さん

2024年度SAWATAウッドデザイン賞 エントリーシート

学校名	山口県立下関工科高等学校		
学科・学年	建設工学科 建築コース 3年		
応募者氏名	ふりがな	ますもと ゆうみ	
	氏名	榎本 優心	
作品タイトル	自然と遊ぶロマンの宿		
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に秘密基地のような遊び心あふれるようなデザインを目指しました。 ・自然とより調和するように、素材を活かしたデザインを心掛けました。 ・地域活性化を意識し、施設のいたるところに野島の名物や歴史などの要素を混ぜることによってお客様に、野島がどんなところなのかをアピールできるようにしました。 ・丸太をメインにすることで、長寿命であることや断熱性の高さ、自然の景観を保つなど、地球にやさしい施設になるように心掛けました。 ・朝から晩までしっかりと楽しめるように、一日の流れを意識しながらアイデアを出しました。 ・野島は猫がたくさんいるそうなので、猫が来ることも想定しました。 		
アピールポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 覆泊りをする丸太の宿 屋根に上れる、家にブランコなどの遊具が一体化している、ログハウスでの覆泊りなど子供から大人まで通じるロマンを詰め込みました。階段側は海を向くように設置することで、朝は、窓から朝日を浴びながら起き、夕方は外でくつろぎながら海と夕日を楽しむことができます。階段の隙間部分をガラスにすることで、室内からも海や夕日を眺めることができます。室内はシンプルな作りですが、斜めの空間があることで非日常感を演出できたと思います。屋根の上での談笑やBBQなど、密かに心にある憧れを叶えてくれます。 2. 丸太のフェンス 施設全体を仕切る、誘導する役割です。断面はランダムに、野島の名物(ツツジ、インゲイ、猫)などが浮き彫りになっています。見たり触ったりすることで、子供も楽しく学ぶことができます。 3. 海辺のレストエリア 昼は、観光や海水浴、釣りを楽しむことを前提にしています。大小セットで、仮辺にいくつか連続で設けます。小さいほうは、休憩ごとだけでなく遊びにも使えます。子供も大人も猫も、良い写真スポットになると思います。 4. 笑いを通して触れ合う施設 野島の大笑親音をモチーフにしました。ハの字の屋根は「8」だけでなく、無限のマークともとらえることができます。「いつまでも笑いを忘れず楽しく暮らしたい」という願いにちなんで「笑顔が無限にあふれる場所」になってほしくてこの形にしました。ここでは、絵馬や紙に面白エピソードや大喜利を書いて笑いを共有することができます。子供でも楽しめるようにガチャも設置しました。ポストに投入された紙を、管理者が木製キーホルダーと一緒にガチャに入れます。また、配布カードを設置しておくことでQRコードからサイトに飛び、ネット上でも笑いが共有できるようになります。掲示板だけでなく野島の天気やイベント、防府市公式サイトへのリンク等があり、来た人に有益な情報を届けます。 		

